

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：1/22～1/26

・ 1/22(月)

都心で積雪、京大 iPS 細胞論文に不正、加計学園問題、憲法改正などについて報じられました。iPS 細胞論文、加計学園、憲法改正については放送法第四条の観点から検討・検証を行いました。特に問題は見られませんでした。また iPS 細胞論文は検証者の所感を記しました。

・ 1/23(火)

群馬県ゲレンデ付近で噴火、東京都心で 4 年ぶりの大雪、丸岡いずみ夫妻がロシアで代理出産、北朝鮮「五輪参加に慎重」、米軍ヘリが沖縄県渡名喜村に不時着、リニア談合で疑惑の渦中にある大林組の社長が退任を発表などについて報じられました。代理出産、オリンピック、米軍ヘリの不時着、リニア談合については放送法第四条の観点からは検討・検証を行った結果、代理出産については放送法第四条の観点からやや不十分な点が見られました。また、リニア談合については検証者の所感を記しました。

・ 1/24(水)

草津白根山「今後も噴火の可能性」、首相平昌五輪開会式「出席決断」のワケ、国会論戦で働き方・憲法、更迭要求も、PAZY Computing 助成金詐欺、プレミアムフライデー について報じられました。首相の五輪開会式出席決断、国会論戦、助成金詐欺については放送法第四条の観点から検討・検証を行った結果、五輪開会式についての報道で放送法第四条に反するシーンがみられました。また、国会論戦については印象操作が疑われるシーンがありました。なお、国会論戦と今回の報道全体の傾向については検証者の所感を記しました。

・ 1/25(木)

記録的寒波 列島に猛威、中国でクローン猿が誕生、富山県・高岡市議会で政務活動費を不正受給の疑い、電通過労死事件で遺族が上司の不起訴に対して検察審査会に審査申し立て、野村沙知代さんお別れ会などについて報じられました。富山県高岡市議会での政務活動費問題については放送法第四条の観点から検討・検証を行いました。放送法の観点からは特に問題は見られませんでした。しかし、印象操作がやや疑われるシーンがありましたので検証者の所感にて指摘を行いました。

・ 1/26(金)

「はれのひ」社長が会見、野中広務氏が死去、松本副大臣の辞任、トランプ大統領が TPP 復帰を検討などについて報じられました。野中広務氏の死去、松本副大臣の辞任、トランプ大統領が TPP 復帰を検討については放送法第四条の観点から検討・検証を行いました。特に問題は見られませんでした。なお、野中広務氏の死去については検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

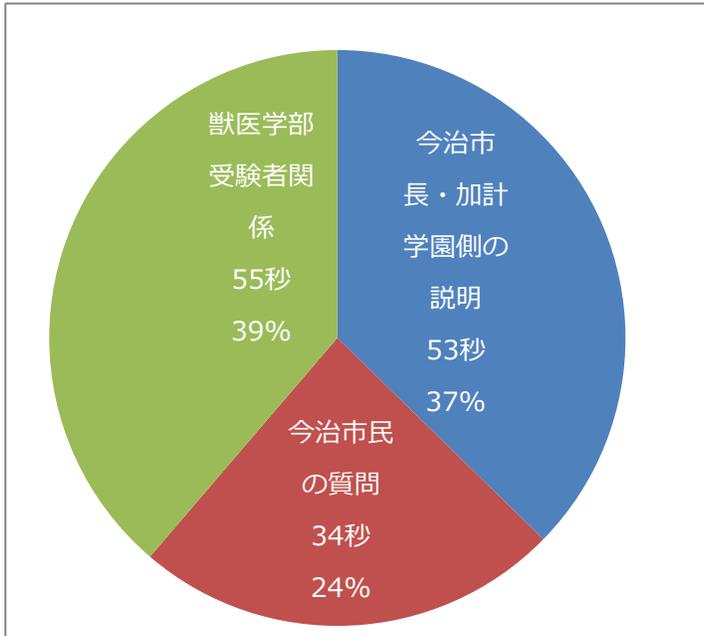
放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 1 月 4 号 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送日： 2018 年 1 月 22 日
<p>出演者： 星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙 ゲスト、森朗(気象予報士)</p>		
<p>検証テーマ： iPS 細胞論文に不正、加計学園問題、憲法改正</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【速報】【最新】 都心で積雪、20 センチ以上の積雪 ・京大 iPS 細胞論文に不正 ・大砂嵐、無免許運転を防犯カメラが確認、書類送検へ ・加計学園問題 ・憲法改正 ・スポーツ報道 ・天気予報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p>		
<p>・ iPS 細胞論文に不正</p> <p>iPS 細胞研究所の山水康平特定拠点助教が去年 3 月に発表した論文にデータの改竄や捏造などの不正があったと京都大学が発表したことが報じられた。また、この論文は発表当時アルツハイマー病などの新薬開発に役立つと期待されていたものの信憑性に疑いがあるという情報が寄せられたこと、調査委員会が調べたところ論文のグラフのデータに捏造と改ざんが見つかったことが併せて VTR 中で説明されていた。</p> <p>なお、VTR では山水康平特定拠点助教は出てこず、山中伸弥教授が「取り返しの付かないことではあります大きく心から反省しております。」と述べているところが取り上げられ、また「辞職するか問われた山中所長はその可能性も含めしっかりと検討したいと述べました」というナレーションによる説明がはいっていた。</p> <p>このトピックに当てられた時間は 54 秒であり、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。</p>		
<p>・ 加計学園問題</p> <p>今治市で行われた説明会の様子が報じられるとともに、獣医学部専門の予備校の様子やそこでは加計学園は卒業生がいなく上方が少ないこともあり第一志望とする受験生はいなかったこと、実際に受験し推薦合格した受験生の「ほとんどが一浪までとかなので、流石にそれ以上は無理っていうのがほとんどなんですけどね、加計だけは多浪生 OK だったので、一般入試全部ダメだったら結局、いくことになるかなとは思いますが」というコメントも紹介された。</p> <p>説明会では、菅良二今治市長の「大学の開学は今治に多くの若者が集まるまさに大きな転換期になります」と加計学園の柳沢学長の「歪められた行政が、まあ正されたと、という言葉が述べられて国民の間でその普及していた誤解というのをかなりこれによって解くことができたと思います。」というコメントとともに、加計孝太郎理事長は出席しなかったこと、質問が 3 名で打ち切られたことも報じられた。</p>		
<p>実際に VTR に上がっていた市民からの質問は「加計孝太郎理事長はどちらで何をなさっているのでしょうか」</p>		

と「もしね、定額通りこの増えなくて、市の財政、ますます赤字が増えれば誰が責任を取るんですか」という2つの質問であり、2つめの質問に対しては今治市長が菅良二「いま、このチャンスを逃しては大変だと言ったことで議会の皆さんにもご理解を頂いて今回の補助を決定する、そういう方向になったわけであります。」と答えるシーンも取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は163秒であり、今治市長・加計学園からの説明、市民からの質問、獣医学部受験者関係のそれぞれの時間配分および比率は以下の通りである。



今治市の説明会では質問が三人で打ち切られた、と報じられていたが実際のVTRでは質問は2人のものしか取り上げられておらず、いずれも獣医学部新設に対して否定的なものであったこと、VTRで取り上げられなかったもう一人はどういう質問をしたのかは気になったものの、今回の報道は放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかったといえる。

・憲法改正

自民党の両院議員総会で安倍晋三自民党総裁が「我が党は結党以来、憲法改正を党是として掲げてまいりました。そしていよいよ実現をする時を迎えているわけでありまして」と発言しているシーンがVTRとして紹介され、憲法論議も国会論戦の注目となりそうということが報じられた。

また、スタジオでは星キャスターが「通常国会、今日招集されて、6月20日までの150日間ということですね。あの、予算の問題がまずあります。それから安倍総理自身が働き方改革法案最大の焦点と言っていますからその2つの問題が論議、当面されるんでしょうけど、やはり注目は憲法改正論議がどこまで進むかですよね、いよいよ実現するときだと安倍さんが今日いいました。野党側はその、森友加計問題、スパコン疑惑を追求する、自民党は9月に総裁選挙がありますからね、それに向けて党内が色々な動きが出てくるという中で私は焦点は4月5月くらいをですね、安倍内閣の支持率だと思いますね。30%くらいに下がっちゃったら中々憲法改正とか総裁選も黄色信号でしょうし、逆に五割六割ということであれば、安倍総理は憲法改正に突き進むという可能性高

NEWS23 週刊報告 1 月 4 号 詳細版

いと思います。そういう意味では世論調査に見られる、国民のね、反応というのも非常に大きなポイントになってくるかな、と見てますね。」とコメントしていた。

このトピックに当てられた時間は 80 秒で、今回は放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかったが、このテーマについては今後も報道の検討・検証の上で注視することが必要であるとする。

また、今後はスパコン疑惑についての報道に関しても注視する必要があるとする。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

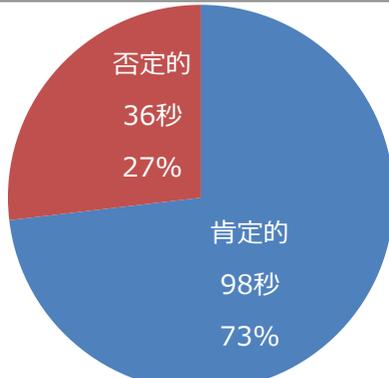
・ iPS 細胞

VTR で取り上げられたのが iPS 細胞研究所所長の山中伸弥教授のみで、不正を行ったとされる当の本人である山水康平特定拠点助教が取り上げられていなかった点が気になった。

・ 番組を通して

今日は都市圏も大雪に見舞われていたため、全体として大雪についての報道が多かった。

NEWS23 週刊報告 1 月 4 号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018 年 1 月 23 日									
<p>出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙 ※駒田キャスターは群馬県の現地から中継</p>											
<p>検証テーマ：代理出産の是非、北朝鮮、米軍と沖縄、リニア談合</p>											
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県ゲレンデ付近で噴火 訓練中の 8 人の自衛隊員が噴火に巻き込まれ、自衛隊員が一名死亡、二名が重態で意識不明 ・東京都心、4 年ぶりの大雪、一夜明けてトラブル続出 ・丸岡いずみ夫妻、ロシアで代理出産 ・北朝鮮「五輪参加に慎重」 ・【速報】米軍ヘリが沖縄県渡名喜村に不時着 ・【速報】アカデミー賞、短編アニメ部門、候補に日本人監督作品 ・リニア談合、疑惑の渦中にある大林組の社長が退任を発表 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・ゲレンデ付近の噴火、最新情報 											
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p>											
<p>・代理出産の是非</p> <p>フリーアナウンサーの丸岡いずみさんと夫で映画コメンテーターの有村昆さんの夫妻が、精子と卵子を体外受精させ受精卵を冷凍保存した後に仲介業者から紹介されたロシア人の代理母に受精卵を移し代理母がモスクワの病院で赤ちゃんを出産した、ということが報じられた。</p> <p>このニュースに関連して後半では代理出産の是非について取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 398 秒だった。</p>											
<p>代理出産の是非について肯定的な意見と否定的な意見のそれぞれの時間配分及び比率は以下の通りである。</p>											
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>意見</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>否定的</td> <td>36</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>肯定的</td> <td>98</td> <td>73%</td> </tr> </tbody> </table>			意見	時間 (秒)	比率 (%)	否定的	36	27%	肯定的	98	73%
意見	時間 (秒)	比率 (%)									
否定的	36	27%									
肯定的	98	73%									

なおこの計測には、前半の丸岡さん夫妻の出産についての箇所は対象とはしていない。

おめでたい話に関連しての問題提起だったこともあり、かなり肯定側に偏っているのは今回に関しては仕方のないことかと思われる。しかし、産科婦人科学会の代理出産に対する反対について「日本には代理出産について規制する法律はありません。一方日本産科婦人科学会は生まれてくる子供を最優先するべきだといった観点から代理出産を認めていません。」と紹介していた点については、やや説明が不十分であるように感じた。この意見では実の母親による出産では生まれてくる子供が最優先にされるが、代理出産では生まれてくる子供が最優先にされない、という意味に取れる。しかし、実の母親による出産であれば生まれてくる子供が最優先にされるということについての保証はどこにあるのか、なぜ代理出産では生まれてくる子供が最優先にされないと考えられるのか、ということについての根拠が一切紹介されなかった。これでは代理出産に対して否定的な見解が十分に伝えられたとはいえないという点で、放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」に照らし合わせるとやや不十分であったといえる。

・北朝鮮

平昌オリンピックへの参加が注目される北朝鮮が、北朝鮮のオリンピック参加に反対する団体が昨日のソウルで金委員長の写真を燃やしたことに反対し、韓国側に謝罪と再発防止を求めると同時にこれを理由に再び参加中止をほのめかしていることが報じられた。このトピックに当てられた時間は 133 秒だった。

・米軍と沖縄

今日の夜に沖縄県の渡名喜村にアメリカ軍の AH1 攻撃ヘリが不時着したこと、AH1 攻撃ヘリは今月 8 日にも読谷村に緊急着陸するトラブルを起こしていることが報じられた。このトピックに当てられた時間は 47 秒だった。

・リニア談合

リニア中央新幹線の工事をめぐる談合事件で疑惑の渦中にある大手ゼネコンの大林組が突然、社長の辞任を発表したこと、大林組は土木部門トップとしてリニア工事を担当していた土屋幸三郎副社長についても自ら辞任を申し出たことによる今日付けでの辞任を明らかにしたことが報じられた。また、大林組は既に受注調整したことを認め、公正取引委員会に違反を自主申告したこと、清水建設も不正を認めている一方で、鹿島建設と大成建設は受注調整への関与を否認しているとみられ、特捜部は実態解明を進めている、というこれまでの経緯も併せて報じられた。

スタジオでは星キャスター「そうですね。ゼネコン四社の対応が分かれましたね。大林、清水建設は談合を認める。これはあの、早めに談合を認めるとですね、課徴金を軽減してもらえって言うまあそういうところを狙っているんですね。一方、大成、鹿島はまだ認めてないって言うことなんですけれども、それで特捜部は陣容を強化しましてね、更に追求するということなんですけれども、これは国会でも相当な焦点になってくると思いますね。」とコメントしていた。このトピックに当てられた時間は 145 秒だった。

今回は放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・リニア談合

星キャスターは「これは国会でも相当な焦点になってくると思いますね。」とコメントしていたが、まだ政治家の関与は明らかになっていない以上は「国会でも相当な焦点になってくる」という理由がよくわからなかったが、星キャスターがそこまで言う問題であるのだから今後も注視すべき問題であるのだろう。

NEWS23 週刊報告 1月4号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年1月24日
----------	------------	----------------

出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾

検証テーマ：首相平昌五輪開会式「出席決断」のワケ、国会論戦・働き方・憲法、更迭要求も、PAZY Computing 助成金詐欺

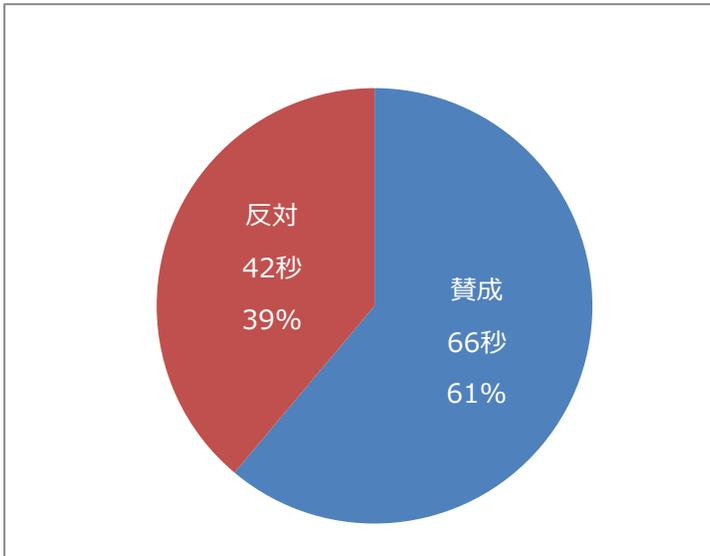
報道トピック一覧

- ・草津白根山「今後も噴火の可能性」
- ・首相平昌五輪開会式「出席決断」のワケ
- ・フェイスブックで国会議員中傷
- ・国会論戦、働き方・憲法、更迭要求も
- ・ファミマの2階にジムが
- ・危険ドラッグ工場摘発
- ・館林84歳女性死体遺棄、時効直前で知人の女逮捕
- ・PAZY Computing 助成金詐欺
- ・スポーツ情報
- ・天気予報
- ・プレミアムフライデー

放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

- ・首相平昌五輪開会式「出席決断」のワケ

安倍総理大臣が平昌五輪の開会式に参加する意思を見せたことについての報道。これを受けた自民党内の反応や出席の狙いを中心に構成されていた。自民党内の反対意見としては青山繁晴参議院議員と山田宏参議院議員のコメントが紹介された。賛否の時間比率は以下の通りである。



比較的賛成側の比率は高いものの、許容できる範囲内と考えられる。

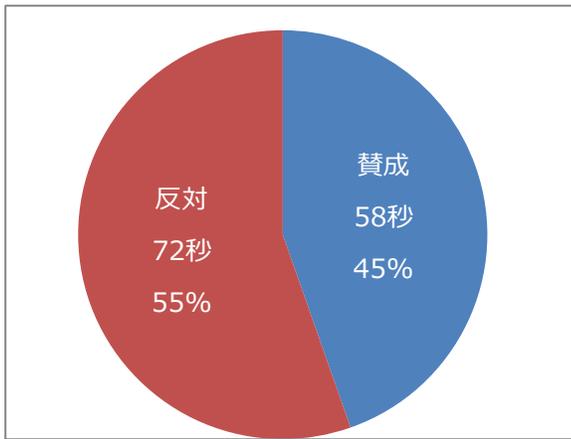
しかし星氏が安倍首相の出席の決断についてアメリカの意向があったとのコメントの中で「ペンス副大統領が

NEWS23 週刊報告 1月4号 詳細版

開会式に先立って8日に日本に立ち寄りますので、それに先駆けてアメリカの意向が伝えられて安倍総理が判断したと、そういう真相ですね。」と述べていた。米国の意向が安倍首相の判断に一定の影響を与えたと、事実関係の中で推測出来ないことはないが「真相ですね。」と断言するだけのエビデンスとしては薄弱である。もし事実と反した場合は放送4条第1項3号の「報道は事実をまげないですること。」に反している可能性もある。

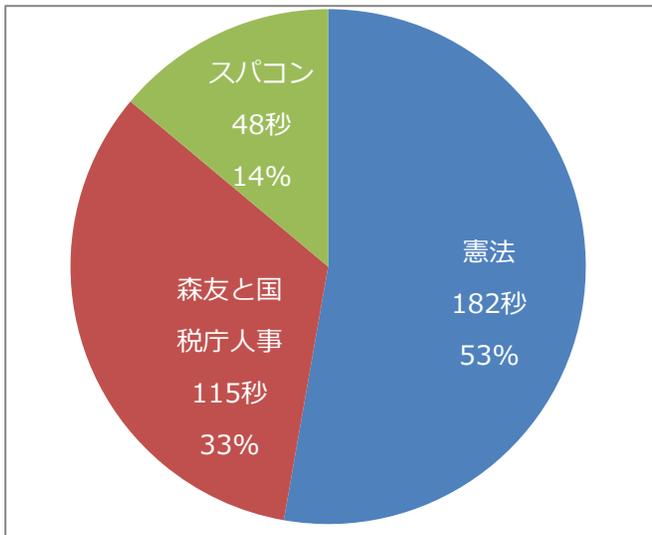
・国会論戦、働き方・憲法、更迭要求も

国会における代表質問での論戦について報道された。報道事項は多岐にわたったため、特定テーマについての賛成反対ではなく、政権側に肯定的か否定的かを基準に賛否を計測したところ、賛成は58秒、反対は72秒、どちらでもないシーンは243秒であった



グラフの通り賛否に偏りはなく比率上は公平性が保たれていた。しかし印象操作と思われる箇所があったため、下欄に記すこととする。

また、憲法、森友学園と佐川国税庁長官の問題、スーパーコンピューターの補助金問題についてのそれぞれの時間配分および比率は以下の通りである。



・ PAZY Computing 助成金詐欺

PAZY Computing の斎藤元章容疑者が所得を隠して脱税したとされる事件に対しての報道。検証シートを作成したものの、今報道では賛否が分かれるところではなかった。なおこのトピックスの報道時間は 35 秒であった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックスの報道内容要旨

・ 国会論戦、働き方・憲法、更迭要求も

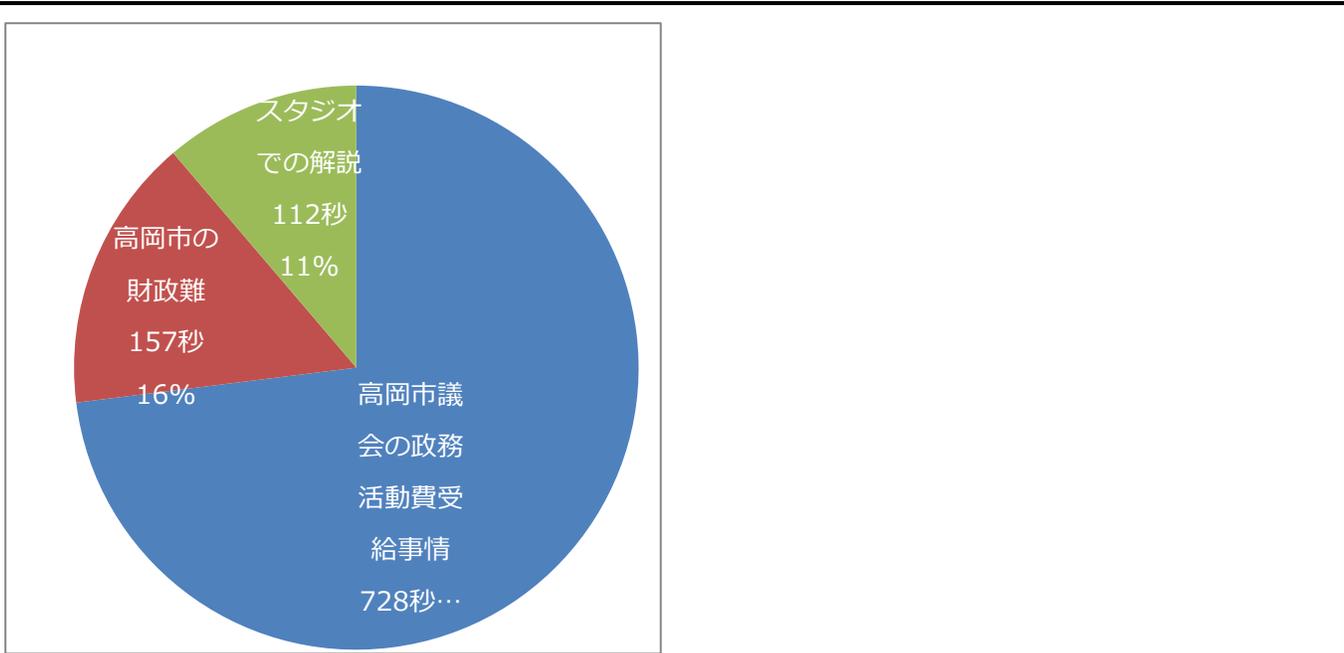
安倍首相の憲法観を枝野代表が指摘した際に「安倍総理の憲法観を疑問視した枝野氏。聞くだけと無駄と言わんばかり憲法に関する質問はしませんでした。」とのナレーションと共に同時に安倍首相が頭を片手で抱えているシーンを映していた。一連の映像や編集は安倍首相が一方的に論戦で不利になっていたかのような印象を与えていたように考える。また憲法を主題とした報道において「聞くだけと無駄と言わんばかり憲法に関する質問はしませんでした。」という表現もまた適切とは言い難い。

検証者所感

全体的に放送時間のバランスは取れていたものの、言葉のバランスが取れていないような報道が多かったように感じた。また国会論戦の報道において駒田キャスターが「憲法というテーマで議論が平行線をたどったり、噛み合わないという事態は避けて欲しいですね。」という発言があったが、議論が噛み合わないのはともかくとして平行線をたどることを否定するのは、憲法の活発な論議を否定する発言とも受け取られかねないように感じた。

NEWS23 週刊報告 1月4号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年1月25日
<p>出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙</p> <p>【ゲスト】川合英文（富山チューリップテレビ記者）</p>		
<p>検証テーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県・高岡市議会で政務活動費を不正受給の疑い 		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録的寒波 列島に猛威 ・相撲界でまた不祥事 3年前の傷害事件公表せず ・中国でクローン猿が誕生 霊長類としては初 ・富山県・高岡市議会で政務活動費を不正受給の疑い ・北朝鮮選手団が韓国入り オリンピック前日に軍事パレードか ・イタリア・ミラノで列車脱線 3人死亡 100人けが ・電通過労死事件 遺族が上司の不起訴に対して検察審査会に審査申し立て ・スポーツ報道 ・野村沙知代さんお別れ会開かれる ・天気予報 ・住宅街で火災 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県・高岡市議会で政務活動費を不正受給の疑い <p>この日の報道においては特集として本テーマに時間が多く割かれていた。テーマ自体は一地方自治体の政務活動費の不正時給の実態を取材したやり取りが中心であるが、今後の政務活動費の支給に関する政策に関わるテーマであると判断したため、検証を行った。</p> <p>内容は富山チューリップテレビが高岡市議会の政務活動費不正受給問題に関して取材した内容が中心であった。自民党会派の議員の不正受給から、民進党会派の議員まで多くの議員が政務活動費を不正受給している実態が取材を通して明らかになっていく構成であった。それらの実態が報告された後、高岡市の財政が立ち行かなくなっている事態の報道が為され、市政立て直しのために複数の福祉予算が削られることが報じられた。スタジオではゲストとして、取材を行った川合記者が取材を行った実感と感想を述べ、星キャスターがまとめとしてのコメントを行った。</p> <p>本テーマにおいては高岡市議会で政務活動費の不正受給が存在していることが前提となった内容であったので、賛否に別れての構成ではなかった。したがって、賛否バランスは計測されなかった。</p> <p>本テーマ内で各トピックに割かれた時間配分は以下の通り。</p> <p>高岡市議会における政務活動費不正受給の実態：728秒（73%）</p> <p>高岡市の財政難の状況：157秒（16%）</p> <p>スタジオでの解説：112秒（11%）</p>		



高岡市議会における政務活動費不正受給の実態に多くの時間が割かれていることが判る。

賛否に関わる内容での放送法違反は存在しなかったが、印象操作がやや疑われる構成であった。詳細は下の【検証者所感】において詳述する。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨特になし。

検証者所感

検証対象テーマにおいて、市議会議員の政務活動費の不正受給と高岡市の財政難が密接に関わっている印象が放送を視聴する中では感じられた。放送中にもあるように議員の政務活動費不正受給が市の財政を逼迫していることが財政難の一要因であると考えられることは確かである。放送における市議会議員たちの記者への説明はどれも説得力に欠け、議員としての資質を疑わせるには充分であった。

しかし、政務活動費の問題を高岡市財政と結びつけるのであれば、高岡市財政を逼迫している他の要因についても言及することが出来たはずである。放送では、市議会議員同志が予算を奪い合う形で公共事業を発注し、それが財政を圧迫したという内容が見られるが、それも責任の所在を議員に当てはめているにすぎない。

高岡市財政の財政難には他の要因もあるはずだが、その点が伝えられなかったことは放送法第四条第四項（意見の対立する問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること）に明確に違反するとは言えないが、抵触しているおそれがあると感じられる。

検証テーマの報道内容自体は多くの国民が知ることで問題提起として良い内容であると感じられた。

NEWS23 週刊報告 1 月 4 号 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送日： 2018 年 1 月 26 日																		
出演者： 星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙																				
検証テーマ： 野中広務氏死去、松本副大臣辞任、トランプ大統領 TPP 復帰を検討																				
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はれのひ」社長が会見 ・【速報】仮想通貨、取引を一時停止、大手取引所「コインチェック」580 億円相当が流出 ・野中広務氏、死去 ・松本副大臣の辞任 ・韓国の病院で火災、最悪規模死傷者 180 人、現場の病院は違法増築も行っていた模様 ・インフルエンザ大流行、患者数が過去最多に ・スポーツ報道 ・天気予報 ・トランプ大統領、TPP 復帰を検討 																				
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野中広務氏、死去 <p>内閣官房長官や自民党幹事長などを歴任した野中広務氏が今日午後亡くなったことが報じられた。VTR では野中氏の生前の事績について紹介されていた。このトピックに当てられた時間は 364 秒で、主に政局での手腕、平和主義のハト派、障害者支援施設を運営する弱者に寄り添う政治姿勢、沖縄という面が取り上げられていた、それぞれのスポットの時間配分及び賛否の比率は以下の通り。</p>																				
<table border="1"> <caption>野中広務氏、死去の報道内容要旨の時間配分</caption> <thead> <tr> <th>トピック</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>沖縄</td> <td>160</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>政局手腕</td> <td>38</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>ハト派</td> <td>100</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>障害者支援</td> <td>14</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>			トピック	時間 (秒)	比率 (%)	沖縄	160	51%	政局手腕	38	12%	ハト派	100	32%	障害者支援	14	5%	その他	5	1%
トピック	時間 (秒)	比率 (%)																		
沖縄	160	51%																		
政局手腕	38	12%																		
ハト派	100	32%																		
障害者支援	14	5%																		
その他	5	1%																		
<p>所感で触れたいと思うが、野中氏の切り取り方がやや一方的であったように感じたが、それでもって直ちに放</p>																				

送法第四条の観点から問題があるというものではなかったと言える。

・松本副大臣、辞任

昨日の国会で共産党の志位委員長が沖縄でアメリカ軍機のトラブルが相次いでいる問題を質問した際に「それで何人死んだんだ」という野次を飛ばしたことをきっかけに、松本文明内閣府副大臣が今日、辞表を提出したことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 105 秒だった。放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・トランプ大統領、TPP 復帰を検討

「全体の利益にかなうならばアメリカと貿易協定のない TPP 参加国と個別もしくはグループでも交渉することも検討する」というトランプ大統領の発言とともに、TPP 復帰への検討を表明したと報じられた。このトピックに当てられた時間は 50 秒だった。放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・野中広務氏、死去

野中氏と言えば、小渕⇒森の政権交代の際の「五人組」の一員であり当時は影の総理とも呼ばれ、また小泉政権での「抵抗勢力」として古い自民党の負の面を象徴する人物として取り上げられていた。今回の VTR ではどうもそうした面があまり取り上げられてなく、単なるハト派平和主義の老政治家として取り上げられている印象を受けた一方で、豪腕であるとか「影の総理」という権力者としての野中氏の面は伝わってこなかったのがやや残念だった。